

○7番（佐藤 孝君）

私も又聞きだと、ビーチホールまがたまは、会議とか集会専用にしようと考えているのではないかと、そういうような話を聞きましたもんですから、これを市民会館でイベントやるには、団体が小さ過ぎてお客が集まらない。まがたまがちょうどいい大きさなんだと、そういう団体が幾つかあると思うんです。そういう団体は、まがたまを使えなくなってしまう、その方向なんかという、そういう心配がありまして、この質問をさせていただきました。

先ほど聞きました6月に採用された技術スタッフですか、その人の専門技術というか、そこら辺について教えていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

6月に採用した職員につきましては、音響等に興味がある方ということで、なかなか専門技術者を雇用することが困難な状況でありましたので、面接させていただいて、音響に関して興味を抱いているという方を採用させていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

佐藤議員。

○7番（佐藤 孝君）

小さい団体にとっては、まがたまをステージ、舞台とホール使うのに大変重宝しているわけがあります。これは市の施策によって、市内に根づいてきた小っちゃい文化団体が消滅するようなことがあってはならないと思います。働きながらグループを盛り上げている小グループにとっては、この行政改革が15ページのホールの部分の検討について、情報が周知されたとは言えないと思います。この状態のまま、すみ分けを、先ほど言われたように、まがたまはというような話になると非常に困りますので、ここら辺の提案を。

終わりました。

○議長（中村 実君）

佐藤議員、時間であります。

○7番（佐藤 孝君）

以上です。

○議長（中村 実君）

以上で、佐藤議員の質問が終わりました。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。〔8番 新保峰孝君登壇〕

○8番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、高齢化に対応した関連施策の充実について、えちごトキめき鉄道について、駅北まちづくり戦略について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、高齢化に対応した関連施策の充実について。

(1) 高齢化に対応した公共交通網をどのように考えているか。

- ① 国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口から、20年後には2万8,000人、65歳以上人口が生産年齢人口を上回ることが推察されます。これらに対応した公共交通網の現状と改善策について、どのように考えているか。
- ② 過疎化と高齢化が同時進行することを考えれば、デマンド交通を中心にした公共交通網に切りかえるべきではないか。
- ③ 鉄道、バス等の基本的連携については、どう考えているか。

(2) 高齢者の買い物支援策等については、どのように考えているか。

- ① 地域別の高齢化とひとり暮らし世帯の把握は、なされているか。買い物支援等、今後の対策について、どのように考えているか。
- ② 移動販売の現状と課題をどのように捉えているか。
- ③ 高齢者の買い物支援策についての基本的考え方をお聞きしたい。

(3) 高齢者の危険運転による悲惨な事故が報じられております。市として高齢者の交通事故防止策は、どのように行っているか。

- ① 糸魚川市における高齢者による交通事故の状況はどうなっているか。逆走や危険運転と言われるような事案はあるか。
- ② 高齢者の交通事故防止対策。
- ③ 自動車運転免許証の返納状況。
- ④ 運転免許証返納後の取り組みは、どのように行っているか。
- ⑤ シルバーカーの講習会等も必要ではないか。

2、えちごトキめき鉄道について。

(1) えちごトキめき鉄道が運賃値上げを考えているとのことですが、その内容はどのようなものか。市はどのように対応しているか。

(2) えちごトキめき鉄道の経営を考える場合、新幹線貸付料に含まれる並行在来線の赤字解消分、貨物線路使用料等、さまざまな要因が絡んできます。リゾート列車「雪月花」の投入等もあります。運賃値上げの理由、要因とえちごトキめき鉄道の経営状況はどのようになっているか。

(3) 当地域における基幹的公共交通の1つであるえちごトキめき鉄道の運賃値上げが、どのような影響を及ぼすと考えるか。

(4) えちごトキめき鉄道に対する糸魚川市の支援状況は、どのようになっているか。

3、駅北まちづくり戦略について。

(1) 都市計画における駅北地域の位置づけは、どのようになっているか。

(2) 被災者支援・被災地復興から、まちづくり戦略へ進めるとのことですが、市民会議・リノベスクールは、どのような位置づけとされているのか。

(3) 駅北まちづくり会議を設置するとのことですが、どのような性格の組織か。

(4) 駅北まちづくり戦略とは、どのような性格のものか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、高齢化に伴い、公共交通の重要性は高まることから、低床車両の拡充や自由乗降区間の拡大など対応しております。

2つ目につきましては、デマンド交通は有効手段の1つであると考え、コミュニティバス等で一部実施いたしております。

3つ目につきましては、28年度に地域公共交通網形成計画を策定し、鉄道とバスの接続調整等、連携を図っております。

2点目の1つ目につきましては、生活実態の把握に努め、引き続き関係機関と連携して、対策に取り組んでまいります。

2つ目につきましては、市内全域で4事業者が移動販売事業を行っており、事業者の採算性の向上と地域との連携が課題であると考えております。

3つ目につきましては、移動販売やお出かけバス事業などにより、買い物に出かけてもらえるよう取り組んでおります。

3点目の1つ目につきましては、30年中の高齢者加害者事故件数は16件であり、逆走はないと聞いております。

2つ目と4つ目につきましては、交通安全教室や講習会等の啓発活動を実施いたしております。

3つ目につきましては、30年中の返納者は238人となっており、前年より増加いたしております。

5つ目につきましては、関係機関と連携して実施いたしております。

2番目の1点目と2点目につきましては、このたびの運賃改定は、優等列車廃止等による収入減、鉄道施設の維持補修費の支出増を主な要因として、当初の収支計画よりも損益が厳しい状況にあり、今後の安定運行のためには、運賃の値上げが避けられないと判断されたものであります。

運賃改定の内容は、全体で30%程度値上げするものとなっております。市では、利用者にも与える影響が大きいものと捉えており、中でも通学定期の値上げは、子育て世帯への負担に直結することから、通学定期の値上げ幅を抑制するよう要望してるところであります。

3点目につきましては、えちごトキめき鉄道は他社の運賃改定の事例等を参考に、定期外の利用者数が8%程度減少すると想定しており、新たなサービスも検討しております。

4点目につきましては、経営基盤の確立に必要な初期投資への出資と維持・修繕への補助を行っております。

3番目の1点目につきましては、都市計画マスタープランにおいて、中心商業・業務拠点としており、糸魚川駅を中心として魅力的な商業、効率的な業務機能の集積や良好な都市景観の創出などにより、多くの人々が交流し、にぎわいのある拠点の形成を図る地域と位置づけております。

2点目につきましては、駅北復興まちづくり計画の3つの方向の1つではありますにぎわいのあるまちを目指すため、まちづくりを担う人材や官民連携による事業の推進を目的といたしております。

3点目につきましては、これまでの駅北まちづくりへの提案などを実践に移していくための検討組織であります。

4点目につきましては、まちのにぎわいづくりのため、若い方を中心として、今までの検討してきた流れを引き継ぎ、官民連携で実践に移していくための手法等を民間主体で考えているものであります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

高齢化に対応した関連施策の充実について、関連して伺います。

バスの市街地巡回線が、不便になったという声を聞きます。高齢者が買い物をする際、午後3時半ごろ着いて、ショッピングセンターとか買い物をして、午後4時半ごろ帰れるようにしてほしいという要望があります。ショッピングセンター入りのバスを増発、このような時間帯で増発することはできないのか。以前はあったというふうなことなんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私ども今回、路線バスの、新保議員おっしゃったの、中央大通り線という新しい路線でございます。これは糸魚川市の公共交通網の再編実施計画を検討するときに、私ども地域に出向きまして、延べ1,000人以上の方からご意見をお伺いしてまいりました。その際に、主な、やはり高齢者が中心なんですが、行き先の中心にあるのは病院、特に糸魚川総合病院というニーズが強うございました。

ただ、中山間地から出てこられる高齢者の方は、糸魚川病院に行き、うちに帰るだけではなくて、中央大通り線沿線の商業施設にも寄りたいたいということで、新しく中央大通り線というものを設けまして、それまで走っておった巡回線の一部をルート変更して、中央大通り線との組み合わせというルートを設定したものでございます。

今のご指摘の時間帯、全ての皆さんのニーズにお応えするというのは、なかなか不便なのですけ

ど、私どもは時間を設定するに当たりまして、先ほど申しました皆さんの意見、病院に行ったついでに買い物をしたいという多数の声をいただいた結果のダイヤ設定でございますが、確かにおっしゃるような、4月から本格的に運用しまして、いろんな声を私どもいただいております。これはこれから今、整理しまして、特に2学期、学校始まるまでに改善できるようなダイヤの調整等は、なただけスピーディーにできるように検討するとともに、それに関しても、また、地域の皆様方と意見交換しながら設定等を進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

実際に運行して、運行しないとわからないということもあると思いますので、ぜひ改善できるものは改善して、利用される方に喜んでいただきたいと、そういうふうに対応してもらいたいと思います。

東回り、西回りとありますよね。東回りをさまざまな行事に使われる國富アネックスまで延長すると便利になるのではないかと思います、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今の路線の中で、私ども想定しておったのは、糸魚川病院とショッピングセンター以外にも吉田病院をどうしようかなということは検討しておりましたけど、今、新保議員ご提案の、國富アネックスという観点は、正直、今初めて私聞かせていただきました。そういうニーズがあれば、そこにつないでいくというのは、公共交通の使命でもございますので、その辺は少し実情というものを調べて、聞き取りながら検討していかなければいけないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

ぜひ検討していただきたいと思います。

それと早川線が不便になったと。そのほかの便もあるんですけど、早川線が不便になったという声があります。糸魚川駅の北口発、笹倉温泉行きのバスが1本もなくなって、老人いこいの家の利用が不便になったということでもあります。どのようにお考えなのか。高齢者にとってローステップの低床バスでない場合、バスの乗りかえは大変であります、これまで1回の乗りかえで済んだの

が、糸魚川駅と糸魚川総合病院とで2回乗りかえになったということでもあります。こういう方もいらっしゃるちゅうことで、いかがお考えか。改善すべきではないかと思いますが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

1本もなくなったというよりは、まず、私ども今の再編の考え方といたしましては、朝・夕の通勤・通学時間帯は、中山間地早川でしたら、奥の湯川内のほうから糸魚川駅のほうまで確実に送り届ける。

ただ、日中の比較のご利用の少ない時間帯というのは、早川のほうから出てきて、今、糸魚川総合病院のところで乗りかえをお願いしとるというようなたてつけでございます。そういう中で、糸魚川総合病院のところで乗りかえの今、各家庭にお配りした大判の時刻表から、その辺の乗り継ぎができるんだよというところを、なかなか読み取るのは正直難しいなというふうにも感じておりますので、その辺のわかりやすい乗り継ぎの仕方というもののPRしていかなきやいけない。

もう一点、乗りかえをするに当たって、ご高齢者はやはり1段、2段という多段を上っていくというのは大変だというのは、常々聞いております。ただ、特に冬季の雪に対して、低床バス、ノンステップバスとかいうものがございますけど、ああいうものが非常に雪に弱いという特性がございますので、冬季以外と冬季だけを車両を交換するというのも、またなかなか難しい問題もございまして、その辺というのは、どうしても今あるバスで冬に強い普通のバスのタイプも、ある程度活用していかなければならないという実情もございまして。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

先ほどの早川線で、笹倉温泉行きのバス、午前中あるのは焼山温泉までなんですよね。笹倉温泉行きというのは、午前中にはないという状況であります。老人いこいの家、皆さん利用される方も結構いらっしゃるということで、ぜひこの辺もやはり考えていただきたいなというふうに思います。

今ほど言いましたように、早川へ行く場合、午前中は7時10分発、糸魚川駅日本海口発、焼山温泉行きが1本。後は糸魚川総合病院発、笹倉温泉行きが4本というふうになってるわけです。午前中は、市街地循環線に乗って、一旦、糸魚川総合病院へ行って、早川行きのバスに乗るという接続形態であります。糸魚川総合病院で待っている間、バスの待合室もないと。病院の中でも待っているのも気が引けると。冬の間どうすればよいのかという声も聞かれますが、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今回の再編を実施するに当たりまして、多くの方に乗りかえということをお願いするというストーリーになっておりますので、その際に乗りかえ拠点の部分の快適性というものは、当然、課題として検討いたしました。

ただ、糸魚川総合病院のところに今の再編と同時に、快適な待合環境乗り継ぎ、乗り合い環境というものを整備するということは、まだ実際に走らせてその辺のご利用状況を見ながら、その辺の乗り合い環境の快適性について後からフォローしていこうというふうな順番で考えておったところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

利用者の利便性と、今言われたようなそういう観点から、ぜひ利用者が乗りやすい、そういう形で改善していただきたいと思います。

デマンド交通のことに移りますけど、過疎化と高齢化が同時進行する。この後は、同時進行していきます。そういう中で、先ほど答弁ございましたけども、デマンド交通を中心とした公共交通網、これは非常に有効ではないかと思えます。それで、現在、糸魚川市内、路線バス等の運行の現状は、ちょっと言い方は行政側の言い方と違うかもわかりませんが、路線バス市街地循環バス、これが主体でコミュニティバス、乗り合いタクシーが一部という状況で、現在、糸魚川ではやられてるのではないかと思います。補助額が約1億4,000万円であります。この中で、黒字路線というのはございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

会社全体としての利益と費用という観点で計上しておりまして、ご利用の状況の人数というのは把握しておりますけど、路線ごとに黒・赤という評価というものは、申しわけございません、今、手持ちもございませんし、そのような評価をしておるといってもちょっと私、今は承知しておらんところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

以前、資料としていただきました人口問題の資料ですが、将来推計人口の関係の資料であります

けど、国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口から、20年後には高齢者人口は、現在よりおよそ20%減、年少人口は29%減が見込まれます。計算するとそういうふうになりました。

2017年度ちゅうのは、平成29年度ですよ。路線バスの平均乗車密度は、市内43路線中、1路線は直江津行ってるのは除いて、43路線中、0.6から1.1人が8路線、2.0から2.1人が28路線、2.2から2.7人が6路線となっております。平均大体2人ぐらい乗車している計算になります。減少幅の少ない65歳以上人口に合わせても、平均乗車密度は、20年間で単純計算して1.6人に下がることになります。

高齢化と過疎化を考えれば、デマンド交通の導入を検討すべきではないかというふうに思いますが、全体、今回の計画をつくられたときのように、市内全部をデマンド交通ということでは言ってるわけじゃなくて、できる、デマンド交通が有効だということもここ、あるいは路線バスの走る場所はここ、直通便ですね、循環バスはここというふうな形でデマンド交通を中心に据えたそういう形態というのを、そういう検討もしてもいいんじゃないかというふうに思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

議員おっしゃるようにデマンド交通と路線バスの長所・短所というものをそれぞれ踏まえまして、上手にベストミックス、組み合わせていく必要がある。それが大切やというふうに考えております。ご提案のデマンド交通を中心、できるところからという部分に関しましては、今現在、糸魚川市の地形的な特性としまして、面積が広くて、かつ谷筋から国道8号への、くし形地形の道路網というふうになっております。そういうことを考えますと国道8号の東西の移動ですとか、市内の中央大通り線、そういう部分に関して、デマンドというのはなかなかなじまない部分もあるんですが、中山間地におけるデマンド、市長答弁にもございました、以前、一部実施しておりますけど、それらに関しまして、再編計画の中で、まず今順番としては、路線バスの幹線的な部分を先行して取り組んでまいりました。この後は、中山間地の部分のコミュニティバス、乗り合いタクシーといった部分に足を踏み込んでいくわけですけど、その中で当然、ニーズですとか地域の方のご利用の意向とか、その辺をお聞きする中でデマンドというものは、十分可能性のある手法だというふうには感じております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

運転免許返納後の報償品で、バス券よりもタクシー券が多いというのは、これはなぜだと思いますか。要望がデマンドの考え方に近いからだと思は思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕



○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私どもの地域公共交通協議会のメンバーの中にも、福祉有償運送の方が委員として参画いただいております。その方にお話をお伺いしますと、うちの玄関までやっとな出てくるのがやっとの年寄りですが、なぜ路線バスに乗れるのかといったようなお話も聞いております。そういうような方に、そのうちの玄関から目的地までと、それをデマンドというふうにやっとなしてしまいますと、じゃあ果たして、私どもの財政もそうですし、運転士等のマンパワー等もどこまでできるかというのがありますので、なかなかそういう部分に関して他事例では散見できますけど、ドア・ツー・ドアのデマンドというのは、タクシー業界との兼ね合いというのも当然ございますので、それはなかなか難しい課題ではないかというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

玄関から玄関への取り組みを行っている長野県安曇野市の新公共交通システム、デマンド交通あづみんの紹介をしたいと思います。

9年前に政務調査でお邪魔したところであります。安曇野市の取り組みは、2009年に地域公共交通活性化再生優良団体国土交通大臣表彰を受賞し、全国から調査に訪れる先進的取り組みであります。安曇野市は、2005年、平成17年10月1日に5町村が豊科町等ですね、が合併し、誕生したまちであります。当時、2009年11月1日現在の人口が、9万9,291人、今は減ってるかどうかはわかりませんが、世帯数3万6,575、面積331.82平方メートル、糸魚川市の面積よりも小さいですけども、非常に一生懸命やったところだと思うんですね。

デマンド交通の仕組みでありますけども、安曇野市が委託してるんですね。安曇野市が、社会福祉協議会に委託して運行していると、こういう形になってるんですね。補助を出してるんじゃないです。共通乗り合いエリアが1つ、1ブロック、それから、5地域エリアから構成されておりました。

受付センターは、NTTのフルデマンド方式が採用されて、オペレーター8人、地域をよく知っている女性が大部分を占めているとのことでありました。登録した方が、利用する時間帯の30分前以上に電話予約する。朝一番の8時の便は、前日予約、時間帯、迎えに行く場所、目的地等を聞いて、オペレーターが運行経路を一筆書きして、運行車両を配車する。運転手は、予約情報を確認し、一番遠い方から迎えにいくと。人口約10万人のうち2万7,000人が登録、対象者は交通弱者、車椅子は別の施策で行っているということでありました。

その中で、私の一番感じたのは、デマンド交通を導入する際の留意点であります。9点ありました。

①住民の目線であるか。市民がどこに行きたいのかからスタートする必要がある。タクシー会社、

バス会社に気兼ねするような計画では意味がない。

全部でなくて、どこができるか考える。

成功させるには、武士と商人が必要と。腹が切れるか、計算できるか。

④三位一体であるか、住民、民間会社、行政。

⑤タクシー会社は一般向けとデマンド両方やる。

⑥オペレーターの役割が大きい。

⑦統計をしっかりと分析できるか、利用者が何歳で、どこからどこへ行ったか等を分析し、改善する。

⑧苦情対応をしっかりとできるか。そういう面では、民間であることが大事。

⑨常に向上心があるか。

ということに留意しているとのことでありました。

糸魚川市の取り組みはどうでしょうか、公共交通、住民目線で取り組まれているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

先ほどの答弁にもございましたが、私どももこの再編をするに当たっては、全地域、多い地区には1地域1地区で3回意見交換にお邪魔しておりまして、1,000人以上の方のご意見というのを私どもは受けて、ある程度自信を持った考え方ということにしてまいりました。自信を持って、この再編計画に取り組んでまいりました。

その中で、今ほどおっしゃりましたバス会社に気兼ね、これは当然、私ども補助してる立場というのもございますが、糸魚川バスのほうも再編の考え方に非常に協力いただいております、その辺はお互いに気兼ねというのではないような状況でございます。

全部できるところからというご質問に関しましても、今ほどの答弁にもありましたが、私も中山間地の部分では、その辺の可能性というのは、平場に比べれば十分あるのではないかというふうに考えております。

ただ、前段申しました意見交換の中で住民の皆さんからの意見も、私どもは聞きました。その逆に、私どもから住民の皆様へ実際に乗っていただかないとバスというのは厳しいんですと。走っていると安心だという、そういうもう時代ではないんですよということを最初に投げかけをして、そういう理解をいただいた上で、皆さんの地域にとってのふさわしいバスのあり方というのを考えませんかということで、その辺は私どもからも伝えるべきことは伝えながら、住民の皆さんの意見を聞いておると。そういう進め方、それは今後もそういうやり方は進めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

安曇野市の関係で、今、1つは検討段階での主な取り組みであります。5項目あります。

- 65歳以上や高校生のいる全世帯対象にアンケートを実施。
- 実際に利用する住民の意向・要望の丁寧な拾い出し。
- 観光客からも1,000件を超えるアンケートや交通実態調査を実施。
- 既存交通の利用状況調査。
- 国・県・地域団体、交通事業者などを交えた協議会を組織して検討。地域の声を反映させる。ということを行ったということでもあります。

65歳以上や高校生のいる全世帯を対象にアンケートを実施して、実際に利用する住民の皆さんの意向・要望の丁寧な拾い出し、これは一番大事なことだと思いますが、どのように思われますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

私ども再編実施計画をつくる前年、平成28年度ですが、その基本的な考え方、基本計画でございます糸魚川市地域公共交通網形成計画、交通政策のマスタープランを策定いたしました。その策定に当たりまして、65歳以上とか高校生と、そういうフィルターというのは余りかけなかったところというのは正直ございますが、アンケート調査をして、その辺の分析から基本計画というものをつくったところでございます。

その中で、今、議員ご指摘の中で、観光客から1,000件を超えるアンケートと。ここは私ども、正直、安曇野市さんのほうにちょっと追いついていないような状況でございます。

それと国・県・地方公共団体の交通事業者を交えた協議会、これは私どもも国の運輸局ですとか県の道路管理者とか、その辺を交えて公共交通協議会というものを設定いたしまして、この地域公共交通網形成計画ですとか、再編実施計画の策定に当たりまして、ご意見・ご指導をいただきながら進めてまいりました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

高齢者の買い物支援策については、デマンド交通のように玄関の近くまで迎えに行くことや、移動販売の支援、スーパー等からの配達等いろいろあると思いますが、高齢化、人口減少が進む時代には、さまざまな目配りが必要だと思いますが、いかがでしょうか。先ほども答弁ございましたけども、ぜひ力を入れて、継続支援していただきたいと思いますが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

川合福祉事務所長。〔福祉事務所長 川合三喜八君登壇〕

○福祉事務所長（川合三喜八君）

高齢者の買い物支援につきましては、ヘルパー等をご利用いただいている方につきましては、生

活支援という中で、買い物のご支援をさせていただいておりますし、また、お出かけバス等をご利用いただく中で、買い物に行っていただくようご支援をするとともに、また、いろいろ宅配サービス等もございますので、そういった支援も継続する中で、高齢者が、より安心して買い物できるような体制を進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

今後、交通事故を防止したり、減らしたりするために、国でも先進国に学んで対策をとっていくと思います。糸魚川市としてもできることはやっていく必要があると思います。

1つは、運転できるような身体機能維持のための健康づくり、いま一つは、高齢になっても安心して暮らすことができるまちづくりが大事だと思いますが、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

健康増進の観点から、ご答弁させていただきます。

今、新保議員おっしゃいましたように運転できるような、そんな健康維持というのは大変大事だと思っております。最近、人生100年時代と言われておりますように健康増進の分野におきましても、何ていいますか健康寿命の延伸というのは、今後の大事な課題になってくるというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

見辺産業部長。〔産業部長 見辺 太君登壇〕

○産業部長（見辺 太君）

お答えします。

高齢者の皆さんは、よく個人の自家用車に乗って運転されておって、日本全国で非常に交通事故が多発しとるといったことでございます。

先ほど新保議員、車を運転できるような健康増進というお話ございましたが、産業部といたしましては、やっぱり何ていいますかバスに乗れるといいですか、公共交通を利用していただく。それをドア・ツー・ドアでなくてもバスに乗っていただける、そういう健康増進のあり方。また、自家用車でなくて、公共交通を使っただけとといった方向に目線を向けてもらえればというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今、担当課のほうからそれぞれ答弁がありましたけども、総合的にまとめてみますと、確かに議員の言われるように高齢化率というのが、毎年大体1ポイントずつ上がってきております。やっぱり健康であっていただきたいというのが一番だと思うんですけども、そういった自身の行動力というのも当然必要だというふうに思っております。そのほかにも、どうしてもそうなった場合のサポートというのが必要になってまいります。買い物にしてもしかり、それとあと雪の問題とか。そういったところがありますので、各全庁的な施策を取りまとめる中で、これから高齢化、人口減少社会の対応というところで進めていかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

運転免許証を返納するまでは、事故を起こさないようにきちんと運転できるようにすると。返納したら、安心して買い物にも行けるし、病院にも行けるという公共交通網を、ぜひいろんな観点から検討して、頑張ってくつっていただきたいと思います。

えちごトキめき鉄道の関係で伺いたいと思います。

えちごトキめき鉄道は、運営方針で、定期券も含めて運賃5年間据え置き、開業後5年間は現行の運賃水準に据え置くということではなかったかと思いますが、どうでしょうか。来年から値上げするということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ご指摘のとおりでございます。開業から、当初、計画の初期の段階では、開業時に3割程度の値上げということも計画しておりましたが、値上げによって、最初の段階でお客様離れというものを避けるということで、えちごトキめき鉄道のほうでJR時代の運賃を据え置くと、5年間据え置くというような方針をつくってまいりました。

その結果、ある程度、目標に対してえちごトキめき鉄道の当初目的には、数字はちょっと押さえておりませんが、えちごトキめき鉄道の目指した目標のご利用というものは、達成されておりますので、その辺の据え置いた効き目というのも、その辺にあらわれているのではないかというふうに捉えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

2015年、平成27年の3月14日、北陸新幹線が開業して、同時にえちごトキめき鉄道も開

業いたしました。新幹線開業で大きな影響が出るため、新幹線貸付料に含まれる並行在来線の赤字解消分が、国から支払われていると思います。並行在来線の経営に対し、30年間支援が行われる貨物調整金、降雪対策支援、安全輸送設備補助、新幹線建設費負担軽減の合計額で780億円が、えちごトキめき鉄道に740億円、新潟県に40億円支援すると。新潟県は、会社に対してその40億円を車両の整備費、指令システムの整備費等の名目で補助するという形になっております。これは変わっていないですね。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

国からの支援につきましては、開業後30年間までの支援総額が780億円の見込みとなるということは、国土交通省と県の間で確認がされております。県の試算では、それが830億円規模となる見込みとしておりました。平成29年度まで支援予定額179億円に対しまして、支援の実績といたしましては203億円という実情となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

そうすると新潟県の予想していたというか考えていたような数字に近いのかなと思うんですが、179億と203億というのを比べれば、ふえてるわけですね。収支で何が一番大きく変わりましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

やはりえちごトキめき鉄道の経営状況の数字を見ますと、やはり貨物使用料というものに大きく左右されております。実際に、えちごトキめき鉄道の収入の部分の大体65%ぐらいが貨物使用料というもので賄われておりますので、貨物使用料の増減によりまして、えちごトキめき鉄道の収支というものが左右されるというような実情となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

そうすると貨物の線路使用料が非常に大きい影響を与えるということですが、この使用料は減ってきてるんですか。どういうふうな推移で来てるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

貨物使用料といいますのは、まずその算出、いろんな要素がございます。その中で、中古資産の減価償却というものが、費用が減少したことによりまして、平成29年から30年にかけて、大体4億3,500万円の減収となっております。これは減価償却分が減ったということで、その分経費も減ったことにはなるんですが、償却期間が短くなったためにその部分の減価償却費が減って、それが貨物使用料の構成要素の1つになっておりますので、そこが減ったというような仕組みになっておるといふふうに聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

そうすると減価償却費の計算が、当初考えていたよりも短くして計算したために、それで何ていうんでしょうか、経費がふえたということで、収支はその負担が大きく影響して、お客さんはそんなに減ってないんだけど、収支のほうでいうと大変になってきてると、計算上は。そういうことでよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

えちごトキめき鉄道では、JRから譲り受けいたしました中古資産、これの償却額、この中古資産の償却期間の考え方に違いがあったというふうに聞いております。逆に、開業から1年から3年の間に関しましては、中古資産の償却額が計画より大幅にふえております。

ただ、3年目以降、それが償却が少なくなったことによって、がくっとそこが減ったということなんですけど、トータルで見ると最初のほうにいっぱいもらって、償却期間が終わって、その分、線路使用料の部分が減ったという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

そうすると貨物の線路使用料が65%なんだけども、減価償却の計算方法を変えることによってといいますか、とにかく価値が少なくなったと。それに合わせて線路使用料が減って大変になった

ということですね。かなりそうすると、えちごトキめき鉄道の経営のやり方、経営のやり方といっても営業というふうなことじゃなくて、経営収支の計算のほうで、当初考えていた見込みどおりに貨物線路使用料がもらえなくなってしまったと。そういうふうと考えてよろしいんですか、捉えて。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

貨物使用料というのは、確かにウエートの大きい部分ですが、やはり根本的な原因というのは、他社の同時に開業した富山ですとか石川のほう、これは県庁所在地を通っておる第三セクターで、えちごトキめき鉄道というのは、核となる都市が上越市程度ということで、ご利用の人数が少ないというところに根本的な原因はあるんだろうなというふうに考えております。

ただ、その中で今現在、貨物列車を通すことによって、その辺の使用料というのも一定程度いただいておりますので、逆に使用料をもっともらえるようにというようなことを県を筆頭にして、国のほうに3市も合わせて要請しておるという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

ぜひ頑張って、それ相応の使用料をいただいていたideきたいと思います。この値上げによって、先ほども答弁にございましたけども、高校生の通学、要するに通学定期ですよ。通学の方たちに大きな影響があると思いますが、定期は値上げしないということで、市としても求めていく必要があるんじゃないでしょうか。上げる幅を最初から小さくしてくれじゃなくて、定期は大変だから、これは上げないでくれというふうに要求していく必要があると思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

昨日の質問にもお答えしたところですけど、糸魚川市としては、今の現状としては、上げ幅を少しでも抑制をしてくれということをして3市と足並みそろえております。というのは、えちごトキめき鉄道の経営の実情というものを見ますと、やはり値上げというのはそもそも、値上げはある程度、やむを得ないというような状況というのも見えます。

ただ、それを通学定期をその分抑えるということは、一般のご利用のほう、あと通勤定期とかそちらのほうに転嫁するという必要がございます。それでなければ、じゃあ逆に今の支援をもっと、行政の支援をふやすというようなことにもなっておりますので、当然、えちごトキめき鉄道のほうには自助的な努力というのをも求めていくんですが、今回の場合には、一切値上げすることまかりならんというよりは、少しでも値上げ幅を全体で3割と言っとる中で、少しでも低くなるようにして



くれというふうをお願いしておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

これまでえちごトキめき鉄道に対する糸魚川市の補助金というのはどのぐらい出されましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

投資支援スキームというものが結ばれておりまして、これまで県、市それぞれ支援をしております。初期投資といたしまして、出資金として、当市は約2億2,000万、毎年の安定経営支援といたしまして、これは会社が支払う個人税とか固定資産税、都市計画税をそのまま支援額として返す、返すというか支払うというスキームなんですが、それによりますと平成28年度で8,060万、29年度で6,300万、平成30年度で4,600万ということで、今までの合計で約1億9,000万円程度の支援をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

とにかくそういう利用者の負担を大きな影響が出ないように取り組んでいただきたいと思います。駅北まちづくり戦略について、少し伺いたいと思います。

糸魚川駅の日本海側で、商業地域という位置づけなんですけども、社会が大きく変化して、人と車の流れが変わっているときに、どのようにして商業地域を構築しているのか。難しい問題にどの切り口で挑戦していくのか、お聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

昨年度改定いたしました糸魚川市の都市計画マスタープランで、駅北地区につきましては、糸魚川駅を中心とするエリアにおきましては商業地区ということで、糸魚川市の中核拠点としての商業的なそれに資するようになぎわいをつくっていく、にぎわいのある拠点の形成を図っていくエリアというふうにしております。これに加えて、立地適正化計画のほうでも糸魚川駅周辺に都市機能誘導区域というものありまして、その周辺及び、能生と青海にもあるんですが、なかなか生活の利便性の高い居住誘導エリアというものを定めまして、糸魚川駅を中心としたエリアの活性化を図るといようなアプローチを都市計画的な立場からはとっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

駅北復興まちづくり計画では、商業地域に必要な駐車場の確保も十分ではないように思われますけれども、市としてどのような商業地域の構築を目指しているのか。駐車場が足りないときは、ヒスイ王国館の駐車場を利用してくださいということなのか。その辺のところはどのようにお考えなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

駐車場の不足といったお話、以前よりいろんなところからもお伺いしております。今回、駅北の復興まちづくりの中においては、今、町なか駐車場といったところで、今整備中ではありますが、そういった形で駐車場、行政として拡大できるものは拡大していきながら、あとやはり土・日等であれば周辺にあります利用していただける金融機関等の駐車場というのは、利用していただけるよというような話になっておりますので、そういったものも使っていただきながら町なかを回遊していただけると。そういった仕組みで考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

商業地域と位置づけられている駅北地域に、人を呼べるような商業まちづくり戦略をつくろうとしているのか、それとも空き家活用等の個々の努力の蓄積を目指しているのか、市民会議、リノベスクールは、知恵を出し、汗をかき、資金も出す、地域づくりの中核として位置づけられているのか、それともアイデアだけなのか、その性格というのを聞かせてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

お答えいたします。

今ほどのお話は、今年度進めようとしているまちづくりの戦略といった部分での、こういったところを目指しているかというふうに理解しております。まちづくり戦略においては、昨年までに市民会議、それからリノベーションスクールといった、こういった形でのいろんな場で、まちづくりに向けての提案、それからアイデア、そういったものを出していただいております。この戦略においては、それらを1つベースにして、実際にまちづくりはどのようにしていこうかというところを、できるだけ実践につなげる形で、まちづくりのことを官民連携で考えたいと。そして、まちづくりにつなげていく、実践につなげていくといったことを考えて、今回の戦略づくりをしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

駅北まちづくり会議は、この地域に駅北地域にどのようなにぎわいの拠点施設をつくるのかを考え、決める組織なのか、それとも市の出す条件に合わせて、それに合ったようなことを決める組織なのか、どのような組織になるのか聞かせてもらいたいんですが。駅北まちづくり会議というものの中で、どの範囲の皆さんの、そこのメンバーの中でこういうものがあるからという結論が出たら、それで市は動くのか、それとも財政的なもので、これは無理だよというふうなことであれば、そうでなくてこういうところでやってくれというふうなことになるのか、どういうふうな組織になるのかというのを聞かせてもらいたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

齊藤復興推進課長。〔復興推進課長 齊藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（齊藤喜代志君）

お答えいたします。

今回のまちづくり戦略をつくる上での駅北まちづくり会議でございますが、こちらでは、やはり先ほども説明させていただいたまちづくりの具体的な活動・施策、そういったものについて、官民連携で考えて、中身によっては官で進めなければいけないものというのも出てくるでしょうし、だからといって、そこで終わりではなくて、やはり民と、それから官民で一緒にといったような形の、そういったものも全てまちづくりにとっての戦略としてつくり上げていきたい。そして、それらを実現に向けていきたいというふうに考えております。ですから、拠点施設も含め、それ以外のいろんなテーマを持ってまちづくり、今後の駅北のまち、どのようなまちを目指すのかといったところを軸に実践的なまちづくりの戦略を練っていくと。それを実行に移していくといったことを考えての会議になります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

私は単純に、市は総合計画からいろんな計画を持って、この駅北の地域、ここは商業地域にする。で、いろんな計画を持ってるわけですよ。大火で、消失したと、多くが。じゃあそこをどうするかというのは、地元ももちろんあるでしょうけど、市がある程度大きな方向づけというのを持たないと、なかなか進まないんでないかなというような気がするんですよ。そういうのがあるんで、今聞いてるんですけど。この駅北まちづくり戦略の対象区域は、17ヘクタールプラスアルファということですけども、どういう範囲ですか、地域的なもので言うと。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

今回の駅北まちづくり戦略の対象エリア、17ヘクタールとプラスアルファというのは、17ヘクタールにつきましては、復興まちづくり計画で上げてあります、おおむね皆さんよく言う、ロの字のエリア、プラスその周辺も含めてのプラスアルファというエリアで考えていきたいということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

そのエリアでいろんな空き家を改造したり、いろんなことをやって、取り組みをやるんだけど、そこにつくる施設の誘客、利用対象者はどのような人たちか。誘客の地理的範囲は、どの範囲なのかというのを聞かせてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

誘客の範囲といいますと、やはり今回のこの戦略をしていくまちづくりの中で、いろんなターゲットがあろうかと思えます。それを絞ってといった形で戦略づくりをしていくのではなくて、こういった方のときにはこんなものというような、そういったターゲットごとに考えるということも、この戦略の中では必要かなと思っております。ですから、観光客の皆さんに楽しんでいただけるまちのプロジェクトは何か。それから、市民の皆さんが集まって楽しんでいただけるプロジェクトはどんなのをやればいいのか。これは例えば空き家のリフォーム等をしていく上で、この施設は観光客用に、この施設は市民向けようにといったすみ分けも必要でしょうし、それが同じに融合しててもいいでないかなという、そんなイメージの中で戦略はつくっていききたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（中村 実君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

15時まで暫時休憩いたします。

〈午後2時49分 休憩〉

〈午後3時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、古川 昇議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

古川議員。〔16番 古川 昇君登壇〕

○16番（古川 昇君）

市民ネット21、古川 昇であります。

通告書に基づきまして、1回目の発言を行います。

1、障害者自立と共生社会について。

2006年国連総会で障害のある方の権利保障に向けた取り組みが進められて障害者権利条約が採択され、国内では締結に向け法の整備を行い、2014年に批准されました。批准に先立ち2011年に「障害者基本法」を改正し、全ての国民が障害の有無にかかわらず尊重される共生社会の実現、合理的配慮の概念が盛り込まれました。2012年に障害者基本法を障害者総合支援法とする法律が制定され、難病等の追加や「障害支援区分」が導入されました。3年後見直して自立生活援助や就労定着支援、重度訪問看護や医療的ケアの充実が図られております。このように障害のある方の自立支援、社会参加の施策が総合的に進められ、地域共生社会の実現に向けて、施策が進められております。

以下伺います。

- (1) 障害児・障害者の本人とその家族からの相談窓口の充実・体制整備について、どのように取り組まれてきたのか経過と現状を伺います。
- (2) 障害者総合支援法が施行されて、自立と共生社会実現に向けてあらゆる角度から市民全体の社会参加が求められております。その環境整備の推進を踏まえて、バリアフリー化について現状をお伺いいたします。
- (3) 障害者差別解消法を実現するための啓発活動や、関係機関との取り組み施策についてお伺